〒737
広島県呉市中央二丁目一番二号
下垣内和人
電話〇八二三(七二)九八五〇番

玄達は芳野天橋立に旅路の老の骨を痛めつゝ
ふるさとに帰り農業の暇し給へ社会の塵を
絶てよ

寒白や表を出ずに用ゐ侍る　玄蛙

かゝて日あらすして病魔に侵されて松雄の方
に薬費を乞ふ手紙の表に
老のまゝにも笑ふるやうに笑ふるやうに
来る心動きて去年の

825-7
俳諧資料カード
年代　文政6
編者(筆者)　玄蛙
書名　華月記三編
備考　安芸大島
(山陰紀行)
(下垣内蔵)

脱衣の色何けしくんやあらすもある人もあれハ考にゆくて
こしみて宮角の神乃子とも余り有とき いふ事ゆ御飯
小笹ら出雲ハ此出雲神社へ詣らしとひそふ称もし多ひも洗ぬ
きえちふ石見の国ハ岩かし路けハしく馬轄の通ひ乏しに
覚束なけし国よしけれハたゝ思ひ出てのミあつしらぬやしら
梅もくれふ色よ見え係家の宿ちんせに私ふ附り
稲色ハいとやうて海辺も十日ゟ遊ひまれすみの様をとめて
男らそ立に脱衣秋の婦をミ秋ひとく婦らいは菓枝といふ煎

きものよ擔いを可部私驛を過て冠山乃険岨を越きハ
峠よ茶店あり茶店ふ家を去る事五十町そりはしても
宮島の郷ら山越の難その堺あり此辺よ移くやすらふ
甚忠ら妹ら新や雌も係ら鳥　玄畦
山をかりてた池の驛を過有田村といふハ家産土なりやう
しと黄皆は親族の家よ宿く
後ら泊ての郷移るし甥子ともよ送られ　山里たち出る
大船の名よ逢るこそ母　戦毒をいふ家相あ　我ハ四十余家

手ら迄又は能て踊かはしひ和漢の書も通性質
実にて古稀ふを書きてそらんじ如へ事を己よ
りの道に勤時は永きも毛を及て世にあらず
に為る
ふか箱我をいふ里毋銅乃馬にて三里えう遠る御
坂とふ所あり赤石の國堺にて坂を下きい
市木乃郷あり二ようを言をてまいりそいい世平
賀し赤石ふ坂ふいを先異を遠あり定後
中ふいふ商くも坂ふいるして今市の驛ようある
酒屋のこれやに見あり事坂
僕
菜枝
歌ア方風いをやくて森ふりしう新の家や時
を猛れも松葉笠を従れもやふ伝地迄蛍ぬ
ゆり道を走のきて里四ふを渡ひ牛市にて大濱田
の城外ふり洲あり三宝の河系ふ忠峯のうしあり
坂にて古き名宝あるより今市店を建ひて中
小巻を見ぬ角もあり明て工ゝ坂ふいる牛

城井は系として古代武治の姓みて、往事国丸と
いひし世に水の流れ入りしいにしへ此国は林をと
ゑて陽が業にし傍は此地の俳徒を指南おら
世を治て長稜るう業て子らを子孫を
夢空設して稜りいふ事常をを定む
谷口大夫乃殿は詣る日　春月君
世を治て世を治る多う所
稜は社業新の傍を　玄蛙

穂は雛に袂をいつきて　国丸
歩をまつりて誘ふ遊　方水
人をなる山田乃月も抱れず　蛙
井出を潜る虫乃たよ　月
下略　掠影
春の海硯を折て歩しぬ　方水
熊乃なの好乃り百　蛙　国丸
春い稜は出は芝桜乃　月　玄蛙

春月君

春もすゑ名残おしむの百景

一日此浦 稿の景を見きて人々我をいけふし

漁舟のいふよ出れい海はは日比入間より帆の出庫八

第世の岩屋よりすゑ帆所より漁村隙売より

鹿島の実家々のうゑ玉江の浦八人麿

乃玉の景より信ゆり床の浦ゆ續古今集より

袖の浦八和泉式部の家の景より見つゝ三天

乃山巻の玉の磯ふと世世より書き和歌の名ふ

ゆるゆ中も巻の玉の磯八世より見ゆ浦玉巻ゆゆ

ゆ袖き事好より好の景を和ふ和を景元寺 玄蛙

西時の水多ゆ八ゆ八ゆ八ん 秋芝

すゆのすゆ八ゆ八ゆ海の景 巣枝

十ゆ八ゆ八つけ海のゆ巻 国丸

朝鮮の方ゆゆすゆれ出 玄陸

海の限りを玉ゆ八ゆ八 左

玉もてい出ゆ猫より見ゆれて

丸　世界のうちにあるものは
蛙　いつまでもいつまでも月を見てゐる
丸　月を見てゐる蛙の顔
全　荒の三笠山へ入て正木の葉や
蛙　伊豆の岬を流れ来る風
丸　貝殻の扇子の家の窓ごとに
蛙　空にかいてある扇を開き
丸　すぐやうな氷を神よ授けたまへ

蛙　枯れて鏡のごとき池すみ切る
丸　伊勢のさやめ沼の三日の月
蛙　沼の上にあめの沼を見送る
全　光吹く風のひとすじ吹きすぎ
丸　子供の塔のうすうすと色
全　貞室の花の咲くを二度吹し
蛙　三輪の名月一宮の月あるう

下田谷

此地の風俗も三日四日を過ぎてものの日数も殘少く
なりゆく様に方角の神佛も心いそがるるに八濱田の宿
を立て長濱といふを過ぎて世あり伊勢畑といふ
あり此は伊勢をうつして濱といふ川あり
をり井あり此いもの原を谷ゆく振袖
家ゆ宮ゆ出で二三軒あり赤にやまろふ宮伊勢
ゆ家ゆ宮ゆ出で大きなる石の大黒あり白鳥の工
ゆ出て祖あり傳あり面ゆ坊ゆ出る金弥具足

川ゆいもの宮ゆ清形あり行程遠き中ゆ
ある海岸ゆ揚り船あり清水ゆ殼ゆ付ゆ
量を行ふ人ゆ出て高端あり注世ゆ珍ゆ石像
あり午時ゆ西刻ゆ此日は三隅の所ゆ宿ゆ

山風は殊に寒ゆ雪ゆ

玄蛙

見ゆ西南ゆ高山あり此は高ゆ岡
ゆ方ゆ集ゆ見ゆ高ゆ谷ゆ高ゆ彼業
豆ゆの宮ゆ高ゆ出て盆ゆ所ゆ過て横田乃

今は京八田中道安といふる隠士あり鶴翁と号し
学を好み詩に双板堂の号を題ぶ人なり当
国の雅事を詩ふよりあり風流の士男女
傍ら和歌を好み貴賤を問ふ人もまた少
此所のよき所なり

溶溶泉

横山に出る水一滴共よりあつまりて
横田に流れ出る宮角にて二重に成り
貞享の頃迄は山路を通れり東の方より

比叡振嶺にて　後鳥羽院の御歌に名高き
山あり又賀茂の峠に石見の歌の山あり
高山あり稲荷姉山高田山なども名所にて
此あたりより遠く見えあり宮角川を
渡る我袖濡れ石川の水　依田猛娘子（ヨサミノオトメ）
川あり

とどろともろの流れ来る水　玄性

神倉の日永も今を生き生きと見えて石川の伝説

八群集の人は惠を宮角の所、二人の能はまぬる
粧ひ尤は別当真稱なるあり太は祝部子の能ふ
名能ふ搖いて嚴なる石の階を昇りて詣る歩
きかく見えたるは御山にして南社にすり
〳〵神像百と拝きぬふ見たり
彫〳〵物流文遊の花の宴　玄蛙
非世俗の祠たるめい世海平野峰いの平
あり　後一条帝萬寿丙寅の夏宮浪
起りて急なる海は浪きう祠り傍は二種の松とい
名木も浪り深ひしらるを見て松は神像を
うけ近き海は形きを再び野山に祠を建て
神像を祭りはるは初傍の碑文を譯あり京保
癸卯の秋一千年は正忌はよて奉幣使をねり正
一位を賜はらる又明和壬辰乃ち一千五十年
乃正忌は法和尚の立場主さに碑を建更事以と
詳は記し於了

方角へ去る三里そうの西戸田村にいふまつ浦家（カタラヰ）の家の裏
にて古き家のうへに庭木柿ありて神生現し給ふ
いつけふ〜おそ〜まきし時此浦家夫婦拾育し奉る
しるべ性い猿部氏なりしら代〜浦家を建立
せしめおみ小社を建此神を祭る一千余年血脈
お續きて尤長者ある人多ふよ一同種々菓柿別蔕
生ず梅ちふあり此二木の外中種ふきるの世ふ知ふ
除色神由のかしこ〜敬ふるあるよ

月見の岩ゆ神の出るる　玄蛙

演田ゆ陸遠い五就翁いるるしの元より國丸を
招うるを住るふの荘ゆまる里うる藩府を去る
一里そうて黒川〜いる宋寧の地〜〜山乃をまい
川ゆ流樂鄭蜀八重山吹まるる義ふ陸ゆの逆梅ゆ
うるる藤原まる此荘乃まゆ猫い美ふ
うる所一乃羽い書をゆ〜〜石田氏の心地ゆいふ
事〜ふのうゆひよ未乃〜ふ〜ふ荘豪爽ゆて

劉白倫が遊び今は此酒も多絶れども往くも素
盛の貴族あり

ほとゝぎす啼て一山くれにけり　五龍翁

菜の戸ハ心乃寓よ銀のうし　方水

ねぢれし此是宝む戸の岸　古暦

雨乃日の海を見てゐる蛤かな　国丸

出家乃宝や四月の夜明かな　玄蛙

玉丸乃家をさかし人の句

帆柱の先まで見る柳かな　亀山

雪解て今し白し梅の花　震染

足に東雨の涼の宿　湖流

馬の耳動して茨が蝶かな　舟六

もろしの人乃暗や花の山　竹雄

れ花や蝶を知つる花ぞ迷ひ　一思

をし花まて住乃花かな　野

川舟の繋てあまた流すけれ　アリシ　岸亭

元福の源流より流れ江は郡邑に江の川を渡る平河
源は河内の国又因幡の国より流出て備後の国を
九五十里走り大河あり上古の可乗川の文字あり
郡名記に江の字に拘て今八字音を以ぶ此川
といふなり

郡名字和大河の水先り　玄蛙

太田の字にして稲田を防ぐ家多し雙鯉伝説あり
て国書紀後嘗て石見志を著し又地理に秀
江の河の図書紀撰ふ多し農家必用の書を作り皆古
書を作り先輩の説をうつし多年郷里験を
なす書り世の名を釣り利を衒ふの所ありあり自
好むとふるを好遊して性を楽ふの業あり
その完全人にて常に客をとめて記臆するところを
談話して日夜怠るの志を云る又称する一時人あり
まるの三日四日一日百日に及て江河の水なきまで
いやしくて熟田自綱を入て二八ふの程三尾尺平

近き餅粉を獲て帰るいとまもとらで独をせさハ

水そゝ鯉を五人のたゝめる　玄甘

言葉の多くはさはゝ問れて　玄蛙

けゝと鶯形のまゝ幾ふやうにきゝ

拾ひ扇よかゝれ山をゝ　梨田

ぬつゝけたゝもたゝ高の家で　仝

はゝもたゝぬ砂の夕巣　蛙

日苔の用意ふ茅もまひゝし　仝

高の茅屋を踏ふゝ

紙代行河を七夕の傘も　田

宮根おこに忍野つゝ川

扶養と松の野ををゝ

ふゝしをゝおこるゝ　仝

水多ゝ多ゝも赤ゝる稼の病　蛙

入江ふ法ひゝきりつ　田

狩ゝゝゝに去ゝ花の日　三田蛙

田

川辺である[illegible]

宗因ら笠を聚山[illegible]かふらをて

抱も夢ぬをトる蛙

捧杭を苔のうめを[illegible]

聚指[illegible]たまらい道

柳うゑの雑るに小子を引[illegible]

うらすいぬをのもうを

見破一夢の大をわれ兼

蛙　蛙　田　蛙　仝　田　蛙

[illegible]切[illegible]の[illegible]

風流を[illegible]八共望の[illegible]四[illegible]

[illegible]神[illegible]

梅[illegible]三[illegible]

[illegible]の川[illegible]

旅況[illegible]の[illegible]

[illegible]乃友を[illegible]

[illegible]の[illegible]

田　蛙　田　蛙　田　蛙　蛙　蛙

法ゐなりの笛に少くる　田
岩瀬の流れの末に年を経て
絶々に家居を隠す竹簾　田
村雨のかすれしに通ひ路　仝
留守荒や人もおそれは　蛙
白らきの花咲あん迷ひこし　仝
沓手ほやつく姿の陽炎　二

名もめつらしき花山の乞食と云人に誘
いれて上は井をてにらは深き古椎の宅
を訪ふことに留る事三日

逐行くらきひつゝ鎖りけり　古椎
卯の花の咲や空咲ての衣　一渕
采子留守咲に借をそわすれけり　丗多
山寺に入日を面影し畑は　ずい
信外へ出ぬにそ萌れ夏の鮮　如舟

みそかや立寒さは油賣　白夕

蓮の葉池のふちにしたまり　虎ノ

掃立てすゞしき庄家信哉　梨田

すゞ風の涌けとゞろや池の水　葉枚

伐しまての工夫にも老いけしの花　玄蛙

冊ありし法の茶毘院大居士とて不墓ありそ其
を問ふ井戸平左衛門とて麾下の一人にして嘗て石見
の国の刺史たりける大森の官廳に在る事あり
性温篤恭敬にして民を撫育する事慈母の赤子
見るをあはれむ如し殊にも海濱の地に其罪を犯
る事を慈しむにより今にその恩恵を仰がる
い不そすでに郷　享保中卒す民其恩情を慕ひ村々
に碑を立て年々其忌日に当る時日に年時を定むるはおのれく
業を止めて此に詣で其霊に祀るとなり
濱手ある湯泉利の浦を經て温泉の出湯に浴し　暮

晒す西田ちよ五位い林色のすき人等尤多し
高崖といふ人の宅より杖をつき
葛より葛ら出る葛ら白きい豆の高ら
すきたひしく裏の桂くさを水の住渋
ちにるなるくすよ名も面白き傾山のうつくら
水上出て流出て清潔ゆ下流を汲む人住まず
して風致たるくおの花世里より来る高玉書高
社高くある高ら社ちくは

卯乃花や垣ぬけのする水の音　玄旺

社友日あよ高の崖亭に集ひ乃おら

何事を書く昼如ちら水鶏　玄旺
ゆも発ふくはいる梅の時　文尚
住ニ葺乃竹簾戸ちるあて　杜考
横臥くちよおて今服の　魚巳
日の出る山乃方至ニ近もきて　寧雅
鶏ひくゆ川あつひて　亀鈴

此蛭も花よりは二葉菜
見まくの人年誕をうけ給
兎遠の宗もかふかの沿を
あるべきよおこと念仏
大根も花もやつ引きまん
百ゑ降とも白もおれな
月を見一世るるも浮合
祝ひいれ入海の浪

已　考　校　牲　考　已

竪横よりは踏まれ野もちらし
百姓系の野もわるる
曙の花いたはしまれ
名猫の乳の姫ふまれ
二階室一あれ見の立ち
姫すこ形ら蕚小蕚も至
子爽ひめふ丹ち乗て
瀧の地を祝ひ彩る

鼎　已　尚　考　已　校

雇　尚　已　鮭　雇　尚　已　鮭

此里も金剛山のふもとにて
延喜二年の碑の跡をも
かゝるの名所旧書にあ
書は人麿の歌にあ
首昭は花の下水あ
子世も絶ぬ名所の
一日百の住年一家繁昌年の一書を出
事見られ一年小　大い芳たはたてにあ

枝　尚　雇　鮭　執　一

家屋敷ハ残らず焼失いたし候段一村共難儀
仕候ハ不申候ハ焼失いたし候家数ハ
僧人ハ不残無事ニ逃去り申候ハ
志の一無之ニ付ハ家屋敷ハ焼失仕候
庫ハ焼失仕候ハ
庫ハ焼失仕候ハ
門戸を叩き
浪人

上方源左衛門
押
四十三人者共
のよ
ハ未代
ハ

思ハ雅し筆の遊とし老ハ源氏ふみ上て日乃是を
忽に仲し厚き氷とかし様に源氏すら情心を忘らし
夫より桃灯そらし好み何かの童子可給ふ
女のさけひ風紙として哀子揃ひし事を
はまし無人無も季来は訓海の源氏手はた乃ハ
は去り来し進て慈て後病不切病子及ひ時良
はさて窮子退まし管いさしきし後依之早
忠いかて返村新来好来もは活て上了接下正

存か去ゐゝ後余ゐ新ゐの紙上進め好有　其角

十二月廿日

嬶　文鱗　於

たかき家や古風の花の硯箱

月雪の中や命の来らぬ あらし哉

けふもや人来つらめて掛乞

麦飯や老いは相識の人は猶　漁巳

山伏の口に蒜洗ふ清水哉　嵩雀

早乙女の手植の苗の咲れる　ユノリ 流輝

夏川の[illegible]を渡る人　ユサト 鳴泉

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　東桃

徒波の茶碗の[illegible]の荒れる　葉枝

亀の画賛吟　[illegible]

池[illegible]　井戸の花さきうい色　玄蛙

玄蛙

[illegible]の[illegible]や垢ぬけの[illegible]水の[illegible]

裕[illegible]　東桃

柄杓振る[illegible]世帯を[illegible]　仝

まるふすきうなる[illegible]　蛙

三日月のさよ[illegible]　仝

稚[illegible]　桃

[illegible]黒引[illegible]　仝

游のふ勢の建立ゝ寺は　蛙
願ゝ隠ゝ彩色をゝくもを見　桃
ゝゝは詩の歌はしれる　蛙
寺往きゝ三輪のおを立ゝ松　桃
心ゝゝのきゝ白毫塔　蛙
笛ゝとゝも道ゝおくなゝ野ふ　桃
追ゝあきゝ畑み蜂風　蛙
頼白ゝ出代ゝ人を哀ゝ亀　桃

無為に帰る御坊を見送る
唐崎の小舟を花の写ゝ合せ　蛙
ゝゝは芭蕉の芽の色ゝ出ゝ　桃
陽里を過て高浦ゝ至る此所ゝ文字の怪
しきれいを所を官ゝ昔穏岐乃国ゝ行けす
きゝゝ馬の付場に海ゝ海の名ゝ成ゝ
ゝゝゝ此里ゝ長其石ゝ人の元ゝ時泉ゝ栗
しゝゝゝ主ゝ称母ゝゝに家をゝゝ風依

傍らあけ家に伝へ本因坊道策が生涯家にして
住い山崎其石に血脉の人形り置き道策が生
涯碁を好きて所小四のわさにあらずして
家にして大江戸より象元無道収に伝へ道に
古今の名人なる元源寺三月二十六日歿年五十四
才其初めの時年ひ一盤石棋秘蔵とせしを
なる若子や書のすきに市服　玄性
道策孔肖像に賛

拔也道也　妙解人神　座隱括澹

前無古人　西宮侍讀芙蓉道人源鳳卿賛

絶知音の嶋に流れ来りし丸　其石
いにしへ出る人を待ちかねの岳　虎岳
赤の磯に嶋流いふあり九五六所の男砂に細く
尤所にして五年を経ぬ一踏み一歩のさはて
ぬ所に寄あり其赤ちう色ち大浦に近し
神宮ちう沙ちう色ちの為て論る不ちる

[illegible]井の[illegible]に此あり出[illegible]陽の大社[illegible]八里
あり[illegible]石山[illegible]醤油の元[illegible]四五日既に[illegible]
吸物[illegible]もす[illegible]蓮の[illegible]　玄蛙
木魚[illegible]　石山
すい[illegible]相八延[illegible]五[illegible]　多賀　醫翁
[illegible]　八子　梶牛

池[illegible]の[illegible]
松の[illegible]
[illegible]
笛[illegible]
[illegible]
小[illegible]
木[illegible]
[illegible]

石山
仝
蛙
仝
山
仝
蛙

人志ぬかたおもひ出る事
寡多やく神ノ為ニ寺
年ゆへ仮初ニも今結ひ
去年ノ結ひ柿ノ木を注
ひとる度ニ日の内ニ現
結を以て眼ニ掛田の案内
ア賜ノ年ニ春ニ成酒水
吉ニ世世ニ成ニ成ニ

山
桂
山
桂
山
桂
山
桂

焼味噌ニ成ノ成ノ成ノ成ノ
吉ニ成ニ成ニ成ニ成ニ

山
桂

吉永の郷山老人を訪て川合村を尋ね名ノ和
川合ノ神社ニ詣物部大田神ノ事伝説を問ふ
神武天皇代年紀年　宇麻志摩治の尊
を祭神ノ事ノ後　繼體天皇ノ時宇佐宮
柱太ノ建ノ新大社ノ宮ノ建ノ物部

国造とは全く其血統連綿して居るもの多く天孫
かなおりける
石見の人通り社人の家をよこやとは其所を問ふ
らは代古社とも書り当物語る人乃者をつ
見あれば富士とは西上人乃詠一三瓶山を見る是
と過る事五里ばかり浜辺乃池にて古歌に信
り一池あり尤大浜あり今も所々に芦多し一
夏山茂ふるとてをとの三瓶山　玄蛙

江の川のながれ出る源乃ほとりにて荒湖を過ぎ他出
をり日の暮るれば宿とるこに泊る
当宿乃戸ハ中川なり一　郭公　玄蛙
郭公聞て二里ばかりある金山村とかの落付て
訪ひいたらば湯のあるて注ぎ球迫国原乃々
まるとて志濃法師の古ふ杖をとゝもとゝの三日
弁乃るに荒海ふるの松明れ　玄蛙
川ちるや明ふる松ふ所あるせる　志濃

[illegible]月のふるまひ[illegible]

[illegible]上に[illegible]海[illegible]を[illegible]の一[illegible]に魚切

[illegible]あり[illegible]或は六七[illegible]十[illegible]

[illegible]一間の巖[illegible]海[illegible]

中一筋[illegible]は天工の水道[illegible]幅三尺[illegible]

五尺[illegible]海[illegible]金[illegible]天造[illegible]

[illegible]事[illegible]は皆種[illegible]

[illegible]に[illegible]

[illegible]岩切の[illegible]上[illegible]海[illegible]嫁[illegible]嫁[illegible]

[illegible]陸[illegible]あり[illegible]高[illegible]絶[illegible]

[illegible]

八上山は矢上村[illegible]布[illegible]

[illegible]山[illegible]海[illegible]布[illegible]隈[illegible]

[illegible]八上の[illegible]

[illegible]梁[illegible]海[illegible]田[illegible]

[illegible]田[illegible]

玄旺

めいにたゝえ遠き田地なれば　梨雪
代々栄えて彩々四季の油菫　蒼亭

志ほう岩窟出羽ありけれども此五石をいとやう
いふ岩窟所々あれども大なる窟あり水湧出るを
やも宝乃水と云ふ伝説有り国石乃宮殿と云ふはあや
しきまこと也窟高くして大已貴少彦名のおい
乃ゝ讃ふ時なる様なる物所平ゝらに二神
就祭る事なり

萱草　出羽　井谷
此花の名なれば某よるの月　都賀　吐玉
ゝ紀ゝ水詠ゝ子供所　永田　東柳
かゝゝにすれる者あり花色、　巣而
ほゝゝゝ咲や野なる宋なる　波佐　双国
安藝乃国へ越ゝゝ田村ゝゝ俗り秋桜の家なる
人参ゝゝゝゝゝゝ生る家所　有田　南山
住ふれ　出羽　ミフ　知壱

見るかぎり 俤もの 百合の花 ミフ 松露
和乃ゑや 牛蒡ふよ 気もつうす 、草路
ひ〜きそう 牛の 蒡 なやひ子 、吉之
すもぢや 筆 そ子人の孫 、呉江
ほとまぶ 呼やを 孫 ぶ 、雀壺
拙 すほ おひよ 牡 弘 阿戸 灵虫
蒡 の ちく なうふる 相 ゑ 後三田 可凉

可部の部

とじてかた

為 新 矢 を 射 め ほ
物 て 形 め る 若 牛 の 凡
庭 す を も て 形 ふ の 嫩 指 玄 蛙
長 い せ と 山 蛙 ふ 泊 五 錐
皐 生 牛 性 え る 月 の 扮 井 部 眉 蛙
蝶 の ち う 布 ゑ 巡 る 茶
そ ち と 豆 赤 い 姻 す 長 る 子
平 家 ひ る の 殺 を 罵 る 錐

板の月ふこほす洞を神てかさ　蒙

拍売乃苔よりの姫　姫

四月を古つともふ人思色し　雖

象味よく育つ鶏の雛　子

子の沼を小さるハ実るから　牡

うすくさしてて梅枝を川　茶

ものひさけさ咲ぬ子和　子

遠ひらぬてるを年寿　雖

まる梅や咲乃湿る岩　合　加部　百川

余の多の中るも世ひ子、貞俊

陳ふ知て生ふ多、古遊

に年猪の海多和梅の多る、梅枝

城ふ多明ふ記されて後の立、文和

貴ふよ部ふの長い梅花、可俗

物主ふ人なもえて苔ふ、祝也

庭ふ苔を吹せ家野歌、景文

活鯛の肉もぬけて皐月哉　加ア　錦五

今死る新子赤ちゃけ虫　恒彦

蛍婦人向ふ向ふ呼ぶの呼　蒼山

皐月乃雪も皆乃ぶ此川の移匠見ゑ〻菁菖とい〻る

をのこをんなとなる一日何ら〻亭主て新婦の母を伴す

日すゝあるれて叶真果おられ〻ゝ移て我をいさあい

扇あり振て後ゝ白ふ下は　菁菖

茅

蛙

雉

子

蛙

茅

子

雉

茅乃中海を南ふすゝあり

赤る北塔ゝ春をゝ〻むゝ

日形ゝの国ゝ〻ゝ木兎乃鳥

おもゝ〻ゝ孤尾を伸ゝ

年ゝ乃季ゝ吟て下ゝ仕也

和月ハゝゝ蛙ゝ赤ゝゝ

卒業乃杉ゝ撰ゝ〻ゝ

一歩振ゝ双六乃角

茅
蛙
雑
子
蛙
茅
子
雑

十月
立山の山ふくを夜ふくる
稲刈の鶏を聞くふる雨

茅
蛙
雑
子
茅

江戸立の庵を従て出る
まゆみよりふる竜の子鉦

玄蛙

かくて庵を修ること二年の秋桂をうゑ定めて住まひけり
北の夜の寂寞を送るに
ふるさとを恋ひ蛙の茅の風

[illegible]　カヲ　柳泉

[illegible]　梨冠

[illegible]　イウミ　麦改　女

[illegible]　吉原　玉也　女

[illegible]　雀江

[illegible]　三次　風師

[illegible]　風甫

[illegible]　湖水

[illegible]　一哺

[illegible]　高敬

[illegible]　北水

[illegible]　吉田　二流

[illegible]　恨徒

[illegible]　貴精

[illegible]　僧　智水

、宮雑
、瓶尤
、固北
、雪衡
、文雅
、礎石
、檀園
、仙矣

、風分
、磯水
、南亭
、二葉 昔原
、岩連
、撥亭
、一甫
、仏渓 入江

寺社石ハ畑ヨ殘ルテ居ル事
御家ヨリ西四里ノ所ノ夜ノ月
曲田際ハ坂ノ峰モ水ノ底
奇丘
隠キ家ノ里ノ人ノ維ノ清ル事
鳥山
青空ノ家ノ陰ノ一筋ノ形
仝
ヒキハ家ノ浦家ノ名ノ
倉橋 佳又
前ノ池ノ行ノ狂ノ跡ノ
維盛
樂ヲ尋ル心地ノ絵ノ姿ノ
萬民

夕雲ヲ見ル事ノ山ノ荒
巨江
白波ヲ寄ル事ノ峰ノ子ノ
也穎
家ノ中ノ世ノ人ハ
魚目
峰ノ風ニ吹ル家ノ
廿市 芝蕙
ヒヲ殺ノ所ノ辰ノ小
得ル
秋ノ月ノ耳ノ垣ノ
仁方 魯
殿ノ中ノ人ノ居ノ八重
久八 源哉

廣島部

桂有　江尤　渚荒　魯外　乃才　少年　春号

芭水　宋年　東坐　胡山　梅園　木居　九可　渚時

[illegible]　堇雨
[illegible]　志川
[illegible]　嘯二
[illegible]　方平
[illegible]　梅甲
[illegible]　挹壺
[illegible]　三花
[illegible]　玄々

[illegible]　葛亭
[illegible]　花雪
[illegible]　柳宇
[illegible]　孤栗
[illegible]　岩田　蓬里
[illegible]　春和
[illegible]　圭百
[illegible]　一冬

[illegible]　耳古
[illegible]　素秀
[illegible]　土方
[illegible]　雪芽
[illegible]　把翠
[illegible]　臺
[illegible]　木意
[illegible]　李河

冬の[illegible]　芦洲
[illegible]　橋二
水仙の[illegible]　宇篁
[illegible]　朝尾
世乃年[illegible]　雨物
すゝ[illegible]　柳後
[illegible]　梅亭
町鼻や[illegible]　白糸

塩竈の浮山清しと千鳥かな　吾逸

猿八乃茶を汲む手ろ水仙ろ　復㐂

牛乃角振や木能葉乃散る方　碧瓦

群れし花楼に舞ふや松の霜　文衣

皇居乃緑く千歳しぬ峯の松　春崖

ひと志くれ清めて出す小山伏　素屋

切れいや採手てあるぬれ牡丹　桃夭

家ゝの川あれハ咲かぬ桃の花　青下

明けての月見えし家ゝ別れ哉　牛聆

面清し雛子呼ふや蓬莱の本　雪須

打春や一日面花か一夜哉　一泉

若清しや引くの清濱の汐　鶴居

吸ものは吟して梅の香　薫令

白魚や夢子あれ係晒し抱　通五

重き妻花延清ゝ揚て雁　南笠

塚乃記ハ四字年号や松の霜　梅十

秋興　作　尾張師

、兎糸

、梅園

、紫苑

、麦秀

梅風

寿且

作　柏佐

糸　舎秋

延史

或人詩をもらく玄蛙風土記詩潘を燒ける伯倫の酒を大し

[illegible]

杜鵑啼ふ[illegible]の道を[illegible]の菊紀小伝を

筆中仙[illegible]を[illegible]

[illegible]の眉[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

池乃[illegible]

夏雲